

## 研究課題名 123I-FP-CIT を用いたドパミントランスポータシンチグラフィの解析方法の違いによる基礎的検討に関する情報公開

### 1. 研究の対象

2015年1月4日から2015年5月31日まで当院のアイソトープ検査室にてドパミントランスポータシンチグラフィを施行した100人の方

### 2. 研究目的・方法

ドパミントランスポータシンチの診断は定量および定性画像で行われている。現在当院ではドパミントランスポータシンチの定量方法として Bolt 法を用いた線状体における特異的結合と非特異的結合の集積より算出された定量指標を用いている。最近診断向上をめざし、新しい解析方法や定量方法として線状体全体、尾状核および被殻の集積に対する様々な参照領域との取り込み比を用いた定量指標が提唱された。

今回新しく提唱された解析方法や定量方法を以前から用いられているものと比較することにより、これまで以上にパーキンソン症候群やレビー小体型認知症の診断能の向上が考えられる。レトロスペクティブに解析を行うにあたり、2015年1月から2015年5月まで、名古屋大学医学部附属病院アイソトープ検査室にて123I-FP-CITを用いてドパミントランスポータシンチグラフィを施行したパーキンソン病またはレビー小体型認知症の疑いのある100症例のデータを画像再構成し電子カルテを用いて疾患群に分類する。そして以前より当院で用いられてきたメジフィジックス社製解析ソフトウェア DaTview で求める定量方法と、今回新しく提唱された SIEMENS 社製線状体自動解析ソフトウェア syngo. SSS で求めた定量方法において比較検討する。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、検査画像、性別 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：**

**愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 68      052-744-2111**

**名古屋大学医学部附属病院 医療技術部 放射線部門**

**櫻木庸博**

**研究責任者：**

**名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻医用量子科学教授**

**加藤克彦**